

2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

①活動の中心となる人材・指導者の育成に取り組んだ例

神奈川：里山ボランティアの募集及び養成研修

秦野市では、里地里山をコーディネートする新たな人材育成のために里山ボランティア養成研修を開始した。活用されなくなった里山に光をあて、市民参加の活用方法を模索するための研修会である。

対象は、里地里山に関心はあるが里地里山の保全技術がない市民とし、技術指導は里地里山に背を向けつつある地権者や農林家が行っている。技術はないが熱意があるボランティアの気持ちが、徐々に、里山に背を向けている地権者等の心を開き、双方の関係が縮まり、文化の交流が始まっている。入会地のルール、私有林、農地の約束事、協働作業、課題の共有を通じて、双方の交流が進むにつれて、新たなコーディネーターが育成されている。

講座は、10回程度で里山保全の意義や手法を学ぶ座学と、里山、竹林、田んぼなどをフィールドとしての実地研修の講座とで組まれている。実地研修は市内各地で行なわれる保全作業に参加するもので、地域の人や活動団体と交流し活動の現場を知る機会にもなっている。



里山整備実地研修



道具の手入れを地元農林家から学ぶ